

平成26年度上半期の京都の殺処分数は、犬 28 頭、猫 1154 頭と、平成 8 年度に比べて激減しています。こうした中において、京都市では、末期ガンで飼育が不可能と判断された安楽死等の犬の殺処分が3頭であり、実質の殺処分はゼロといえます。また、京都府では、猫の殺処分数は297頭と、昨年の同時期に比べて、約4分の1にまで減少しています。



### ●譲渡されるまでのセンターの取組

#### 衛生管理について

センターに搬入されると、まず基礎的な健康診断を行い、1～2週間の観察期間を設けて、他の収容動物と隔離します。これは、感染症などの潜伏期間中に、既に収容されている犬猫への接触感染をしないようにするためです。その後も譲渡されるまでの間、健康管理に注意した飼育を行います。

#### 犬について

犬の譲渡を一層進めるためには、咬む・吠える・落ち着きがないなどの問題行動への対処が重要であり、センターでは「京都方式」を導入する予定です。「京都方式」は、収容されている犬の問題行動を改善して、次の飼い主さんを見つけやすくするものです。外部の専門家に監修を依頼し、問題行動の改善をドクトレーナーが行うことで、従来困難であった犬の譲渡や新たな譲渡ネットワークの開拓を目指しています。

#### 猫について

猫の引取数の約 8 割は子猫であり避妊去勢手術がされないまま放し飼いになっている猫や野良猫が産み落とした子猫が多いからです。衰弱しきっている場合が多く、殺処分の対象となってしまっています。こうした現状を改善していくために、以下の取組を進めています。

##### ①「まちなこ」活動支援事業

地域の合意のもと、自分たちで決めたルールに基づき避妊去勢手術、地域の野良猫のエサやりや片づけ、猫トイレの設置や清掃などの活動に、地域住民で取り組み、野良猫を地域で一代限り適正に飼養する活動です。京都市では、活動の支援として避妊去勢手術を無料で行っています。

##### ②子猫の一時預り在宅ボランティア

1 頭でも多くの猫を助けるために、約 1 箇月齢の子猫を自宅で一時的に預かり、目の行き届いたきめこまやかなお世話を頂くボランティアさんを募り実施しています。約 2 箇月齢になった子猫は、センターに返還後、府市一体となった広域譲渡をするというものです。

### ●私達にできること

京都動物愛護センターの理念として、「殺処分ゼロ」を目指していますが、皆さんの協力が必要です。そのために、次の取組を拡げていきたいと思えます。

#### ①終生飼育の徹底

一度飼われたペットは最後まで世話をしてください。手放さない、虐待しない、環境に配慮した飼育を行うことを徹底し、ペットの命を簡単に捨てることのないようにお願いします。

#### ②マイクロチップ等の装着

万が一、愛犬・愛猫がいなくなったとしても、鑑札やマイクロチップを装着していれば、飼い主の手元に戻ってくる可能性は高くなります。



上)マイクロチップ(矢印の先)  
左)マイクロチップの読み取り機

#### ③避妊去勢手術の実施

繁殖を目的としないのであれば、避妊去勢を行うことで不幸な子犬・子猫の数を減らすことができます。また、前立腺肥大や乳がんなどの病気も予防できます。

#### ④猫の屋内飼育の推進

猫タワーなどを使用して運動の機会を与え、家の中で飼育すれば、放し飼いの猫を減らすことができます。



猫タワーを使った飼育例

収容されるペット達を減らすには、産み落とされる子猫の数を減らすことと、譲渡の取組が重要になります。

皆さんとセンターが協働して殺処分をゼロにし、人と動物に優しい京都にしていきたいと思います。

## きょうと 動物愛護 出前授業

# アニラブクラスに行ってきました！



「犬に近づく時はね…」職員さん実演中

子どもたちが実際に犬とふれあい、聴診器や心音器を用いて心臓音を聴き取る体験をしたり、犬や小動物との接し方、その習性や役割について学んだりしながら、「命の大切さ」を実感し、動物愛護意識を育ててくれることを目的としています。そこで昨年12月5日に幼稚園で行われた「きょうとアニラブクラス」取材しました。

白いトイプードルと茶色のミニチュアダックスです。犬を見るなり、「おしゃれなワンちゃん！」と目を輝かせた女の子。絵本の読み聞かせや市の職員さんの「犬との仲良くなり方」実演をみんな興味津々で見つめていました。心音の聴き取りでは犬の心臓、職員さんの心臓、先生の心臓の音を歓声を上げて聴いていました。先生は「このような『命の大切さ』を教えてくれる出前授業はとてありがたい。子どもたちと共に是非保護者の方々にも受けてもらって、日常生活の中で生かしてほしい。」とお話しをされていました。



センターでこんなことやっています！

京都府と京都市では、子ども達を対象に動物との正しいかかわり方などについて学ぶ動物愛護出前授業を実施しています。



「犬と仲良くなるにはどうしたらいい？」職員さんの質問に…



お行儀のいいセラピー犬 (NPO 法人アンビシャスの協力)

## 動物愛ランド・京都 ボランティアスタッフ チーム活動紹介



ボランティアスタッフは一定の頻度で京都動物愛護センターにて動物舎の清掃や来館者の案内などの活動をしています。それ以外に、希望によって参加するチーム活動を4つ設定しています。各チームには担当職員が付き、月1回程度の定例会を持ちながらテーマごとの活動をしていきます。

ふれあい普及活動の新たな可能性を探り、啓発プログラムをつくりまします。プログラムができ上がったからは、チーム外のメンバーにもその内容や進め方を伝え、従来の出前教室以外のプログラムも幅広く展開できるようにします。

普及啓発プログラム開発チーム



ボランティア元気アップチーム

ボランティア同士の情報交流や懇親を図るためのチームです。情報交流の仕方を考案したり、懇親会を開催したり、全体の元気づくりのための活動を工夫します。



動物愛護センターには展示コーナーが設けられます。常設展示もありますが、一部は定期的に内容を更新して来所者に向けて新鮮な情報提供に努めます。このコーナーの展示内容を考えたり、作成したりします。

展示コーナーチーム



機関誌編集チーム

動物愛護センターや動物愛護の取組についての理解を上げるために定期的に機関誌を発行します。平成26年度には、機関誌準備号を発行しました。

